1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0971100144
法人名	医療法人社団為王会
事業所名	グループホーム あかり
所在地	栃木県矢板市扇町2-8-34 (電話)0287-44-2115

評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	平成21年9月29日	評価確定日	平成21年11月8日

【情報提供票より】(平成21年8月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	23人	常勤11人, 非常勤12人, 常勤換算15.5	

(2) 建物概要

建物構造	木造づくり 1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	・理美容代・おむつ代 ・行事費(実費)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(70,000円)	有りの場合 償却の有無	有(退去時全額返金)	
食材料費	朝食	200円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	150円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(8月29日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	4名	要介護2	8名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 88歳	最低	76歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	尾形クリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設当初と比べ利用者の介護度も上がり、医療の必要性が増してきている。そのため、同法人のクリニックとの24時間対応可能な医療連携や医師が毎月最低2回訪問する他、隣接する在宅介護支援センターの看護師が随時相談に応じるなど、入居者の日常的な健康管理や緊急対応が行われている。このことは、家族だけでなく職員の安心感につながっている。入居者が地域に住んでいたときの関係性を切らない、入居者の思いを切らない、今までの暮らしの延長線にある生活を大切にしたい支援がなされている。運営推進会議でも高く評価されるほど、外出の機会が多いのは、2ユニットの職員の協力体制ができてきている強みと全職員で話し合って取り組んだ成果である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受けて全職員で話し合い、運営推進会議の充実、外出の機会を更に増やす、自分で歩きやすいようにおむつ外しに取り組む等、評価を改善のきっかけにしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の直前に管理者の法人内での異動があったが、自己評価は全職員で取り組み、リーダー、サブリーダーを中心にまとめ、ホームの管理者を兼ねているセンター長と新ホーム長が仕上げている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)
	昨年、運営推進会議に参加した市の担当者から運営推進会議は2ヶ月に1回開催してほしいとの意向が示され、開催回数を増やしてきた。しかしインフルエンザの予防で外部の人の出入りを制限した期間があり、予定どおりの開催が困難となっている。運営推進会議では入居状況、事業計画、活動報告、行事のお知らせ、外部評価の報告などの他、出席者との意見交換もなされている。運営推進協議会での話題がきっかけで、隣地の草刈りを行ってもらうなどホームではできないことが解決している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱を設置したり、面会時や家族会の時に意見や要望など尋ねるようにしている。家族の中から「家に連れて帰ると直ぐに「あかり」に帰ると言われる。「あかり」が本人には生活の場になってきている。だから、生活するのに一番良いところにしてほしい」と意見が出されたことを強く受け止めていた。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入し、ゴミステーションや公民館の掃除、地域一斉ごみ拾いなど班の一員としての役割を果たしている。地元の人からお不動尊の縁日に誘われ料理やお土産をいただき、散歩で休憩をとる近くのお寺ではお茶を入れていただくなど地元の人との交流が続いている。併設施設のコミュニティールームで催される介護教室、フラワーアレンジメント教室に参加した地元の人にホームを知ってもらうため、ホームに立ち寄る機会を作っている。

2. 評価結果(詳細)

は、重点項目。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの近くに自宅がある入居者も多いことから、地域の中で暮らし続けることを念頭に置き、職員全員で話し合っ、「住みなれた地域の中で、普通の暮らしを支えます」という理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、入居者が地域に住んでいたときの関係性を切らない、入居者の思いを切らないように職員に伝えている。グループホームに暮らしていても、散歩の時自宅の庭の花を眺め、イチジクや柿を採ってくる、出会った自宅の近所の人と挨拶を交わす、いつも利用していた床屋に行く、馴染みの洋服屋に行くなど、ホームでの生活が今までの暮らしの延長線上にあるよう心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、ごみステーションや公民館の掃除、地域一斉ごみ拾いなど班の一員としての役割を果たしている。地元の人からお不動尊の縁日に誘われ料理やお土産をいただく、散歩で休憩をとる近くのお寺ではお茶を入れていただくなど地元の人との交流が続いている。併設施設のコミュニティールームで催される介護教室、フラワーアレンジメント教室に参加した地元の人にホームを知ってもらうため、ホームに立ち寄る機会を作っている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の直前に管理者の法人内での異動があったが、自己評価は全職員で取り組み、リーダー、サブリーダーを中心にまとめ、ホームの管理者も兼ねているセンター長と新ホーム長が仕上げています。前回の評価を受けて全職員で話し合い、運営推進会議の充実、外出の機会を更に増やす、自分で歩きやすいようにおむつ外しに取り組む等、評価を改善のきっかけにしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年、運営推進会議に参加した市の担当者から運営推進会議は2ヶ月に1回開催してほしいとの意向が示され、開催回数を増やしてきた。しかしインフルエンザの予防で外部の人の出入りを制限した期間があり、予定どおりの開催が困難となっている。運営推進会議では入居状況、事業計画、活動報告、行事のお知らせ、外部評価の報告などの他、出席者との意見交換もなされている。運営推進協議会での話題がきっかけで、隣地の草刈りを行ってもらうなどホームではできないことが解決している。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と情報交換する機会は、市への提出書類や運営推進会議の会議録を届ける時、電話をする時など限られていたが、市内のグループホーム連絡会ができ、その場に市の担当者も出席するようになり、市と連携する機会が増えた。		市内のグループホーム連絡会に市の担当者が参加するようになったことを機会に、今後、市とともにサービスの質の向上に取り組むことが期待できる。ホームのケアマネジャーは、市に施設ケアマネジャーの研修を行うことを期待している。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回発行される個人別の「あかりだより」で、ホームでの入居者の暮らしぶりや健康状態、行事予定などを家族に知らせている。家族の面会時には日常生活の様子を伝え、預かり金がある場合は金銭出納帳の確認をしてもらっている。今回、管理者の急な異動があったが、利用者には直接伝え、家族には管理者が直接電話で知らせている。その後、あかりだよりで新管理者の「新体制になっても理念を崩さず取り組む」という挨拶を載せている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、面会時や家族会の時に意見や要望など尋ねるようにしている。家族の中から「家に連れて帰ると直ぐに“あかり”に帰ると言われる。“あかり”が本人には生活の場になってなっている。だから、生活するのに一番良いところにしてほしい」と意見が出されたことを強く受け止めていた。		“あかり”の生活が長くなり、入居者にとって“家”となりつつあり、家族から意見が出にくくなるが、それに甘んじること無く、これからも家族から意見が出るようにホームからの働きかけに工夫を凝らすことを期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、入居者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の異動があったが、運営者は職員の育成、入居者との関係性を保った異動となるよう配慮をしている。敷地内にある同法人の訪問介護の顔見知りの職員がホーム長となっている。前管理者は在宅介護支援センターへ異動しているが、支援センターも敷地内にあるため異動後も顔を出せるなど入居者との関係性に配慮がなされている。また、東西ユニット合同で行うことを多くしたり、職員の相互協力の工夫や職員間の申し送りをしっかり行うことで、職員の異動によるダメージを少なくしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	所内研修は「あかり勉強会」として介護の実践に直ぐに役立つ内容をテーマに行われ、法人内研修は同一法人の専門職の協力で実施している。外部研修についてはパート、常勤の区別なく全員が受講出来るように、ホーム長が勤務の調整をして、研修会に出やすく、資格が取得しやすい体制作りをしている。昨年から新人職員に対して、先輩職員が1年間マンツーマンで教育・指導するプリセプターシップを導入している。プリセプターは、介護福祉士で入職3年以上の職員が担っている。		職員研修については職種の区別なく受講させ、また勤務の工夫をしてできるだけ多くの職員が受講できるよう意欲的に取り組んでいる。しかし、法人及びホームとしての年間研修計画が作成されていないので、今後はより一層の職員の資質向上や資格取得等による計画的な職員育成体制の確立を図るため、職員一人一人の数年先までを見据えた年間研修計画を作成することを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会主催の勉強会や講演会への参加をきっかけに他の地域のグループホームとは交流する機会があったが、やっと矢板市内でもグループホーム連絡会が発足し、年3回ではあるが地域の同業者との交流や情報交換を行うことができるようになっていく。		今後、サービスの質を向上させていく取り組みに結びつくように、市内のグループホーム連絡会の交流を活かすことを期待する。

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の入居者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談の段階から本人に家族と一緒に来てもらい、ホームに慣れてもらっている。すでに入居している人と話すときは職員が会話のきっかけとなるような橋渡しをしている。また、隣接するデイサービスの利用者だった場合は、事前にホームにお茶を飲み来るなど徐々に馴染めるような工夫をしている。入居前の在宅サービスの利用で隣接する支援センターのケアマネジャーやヘルパーとも顔見知り、グループホームの利用を開始するのに安心できる何らかの接点がすでにあった人もいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームで使う小さな手拭きをたくさん縫って用意してくれる入居者は、足りなくならないように気にかけてくれる。おまんじゅう作りを得意とする入居者、料理や片付けを手伝ってくれる入居者、それぞれの入居者の得意とすることを発揮する機会を用意し、様々な場面での達成感やみんなの役に立っていることを実感できるようにしている。レクリエーションなどでは職員と一緒に楽しむ関係を作っている。また、職員は、否定することなく話を受け入れ、ちょっとした話しにも共感し、本人の思いを大切にすることで、気持ちの中での支え合いを実践している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「その人らしさを大切にする」をスローガンに全職員が日常生活の様々な場面から入居者の思いや意向を把握している。例えば、ホームのお隣さんが野菜を届けてくれたり、入居者を毎日のように訪ねてくれることに対して、「いつも来てもらってばかり、一度も行っていない」と気にしていた入居後5年経つ入居者が、杖についてお隣に初めて回覧板を回しに出かける際に、職員が付き添うなど、本人の思いが形になるような支援を心がけている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる入居者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は入居者に関する情報を毎日の申し送りの時などに伝え、その情報がアセスメントに盛り込まれている。さらに、家族の面会時に対応した管理者や介護計画作成担当者、職員が家族の意向を聞き取っている。朝夕のミーティングや毎月の勉強会の場で、入居者一人ひとりの思い、その人らしさを大切にす支援となるよう職員と話し合い、その上で介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に3ヶ月で見直しているが、朝夕の申し送りや介護記録などから状態の変化がみられる場合は、適宜変更している。月一回行われる勉強会の中で、サービス担当者会議を行い、介護計画作成担当者は職員から意見を聞き介護計画を見直している。例えば、退院間近の入居者の「早く“あかり”に戻りたい」との願いに応えられるよう介護計画が見直されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携については、同法人のクリニックと24時間対応が可能な契約を結んでいる。また、医師が毎月最低2回訪問する他、併設のデイサービス・在宅介護支援センターの看護師も随時相談に応じるなどの体制が整えられている。入居者の日常的な健康管理や緊急対応が行われているため、家族だけでなく職員も安心感を持っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携している協力医療機関への受診により、入居者の健康管理及び疾病等への一連の対応ができています。協力医療機関への受診には職員が付き添い、診察結果や服薬等の医療情報については、口頭や個別介護記録簿への記入によって、確認・職員間の伝達を行っている。協力医療機関以外への受診の際は、原則として家族が付き添い、医療情報については同様に確認・伝達を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化したり終末期に入りそうな段階から、家族と医師や職員が度々話し合いを持ち、家族の要望をできるだけ受け入れるという考え方でその後の方針を立てている。しかし、ホームに看護師がいないことから、「基本的には、ホームで看取りは行わない」という考え方である。十分な理解・納得がいくまで家族と話し合うという姿勢を持っており、過去にも、「最後まで“あかり”で」との家族の希望に、できる限りまでホームで介護して最後は家族が納得して入院となった事例がある。		「ホームでは看取りは行わない」という基本方針はあるものの、介護職員としてターミナルケアについての知識やスキルを学ぶことにより、日常の介護にも大いに役立つことになると思われるので、今後の職員への研修計画に組み込むことが期待される。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1.その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、「言葉遣いは心遣い」ということをモットーにしており、排泄や歯磨きなどを促す際も「ちょっとお部屋に来てくれますか」という言い方をして、他の入居者に分からないような心配りをしている。一人で過ごしている方には、見守りをしながら時々声かけをするという対応がなされている。カツラの着用を他の人に知られたくない方には入浴を最後にしたり、入居者間の会話時のフォローをするなどの配慮がなされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の過ごし方はあるが、誘いかけはしても無理強いせず、入居者一人ひとりの希望により居室や居間で思い思いの過ごし方をしている。居室で寝ていたり読書をしている方は見守っているが、ただテレビを長時間見ているだけという方には、声をかけ他のことに興味が向くよう誘導をしている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好き嫌いは日常会話での聞き取りや年1回の嗜好調査で確認し、給食委員会で献立を作成する際に配慮している。献立は法人の栄養士に相談してアドバイスを受け、栄養バランスにも気を付けている。入居者それぞれができる範囲で、配膳や片付け・食器洗いをしている。メニューに旬の食材を取り入れたり、食堂の周りに季節の花を飾ったり、また職員が楽しい話題を提供して会話が弾むなど、楽しい雰囲気作りを心がけている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は、一応15時30分から19時30分としているが、「寝る前に入りたい」というような入居者の希望に応じて随時入浴している。風呂嫌いの方には、排泄の際にうまく誘導して入ってもらうような工夫をしたり、シャワーや清拭をして最低でも1日置きには清潔な状態になるようにしている。一人ずつの入浴で所要時間も様々であり、職員は脱衣室に必ず待機して本人の希望に応じて介助を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	琴・大正琴・ハーモニカ・書など、それぞれ好みや得意なものを十分楽しんでもらえるよう、時間帯や場所の配慮をしている。また、クリスマス会などの行事の際に発表する機会を設けている。かなりの高齢だが「雑巾縫いや洗濯物たたみはどうしても自分が」という方には進んでお願いしたり、書の得意な方に毎日の食事のメニューを書き出してもらったりするなど、それぞれに張り合いの持てる場面設定がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけたくさんの方に散歩をしてもらうようにしている。入居者の希望に応じて遠くまで行きすぎて、帰りは車で迎えということなどもあるがそれもよしとしている。買い物やドライブの希望にはできるだけ応じており、誕生日に外食したり、スーパーで化粧品を買ったり、道の駅で果物を買うなど様々である。ホームで飼っている犬の散歩や食材購入のお手伝いなどの、役に立っていることを実感できる外出も行っている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサー付きチャイムを設置し、向かい側の支援センター・デイサービスの職員の協力で声かけなどもしてもらっており、東棟、西棟の両ユニットとも玄関は無施錠となっている。ただ東西に長い建物の構造上東棟玄関は職員の目が届かず、入居者の安全確保が十分できないため、7月から土曜午後と日曜は東棟玄関のみ施錠している。家族には面会時に状況を十分説明し、了解を得ている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設のデイサービスと共同で、消防署の指導のもと年2回避難誘導や初期消火訓練を行っている。出火想定場所を変えたり、夜間を想定した避難誘導訓練を行うなど、できるだけ実践的な内容にするよう工夫している。また、災害時の対応について、できるだけ近隣住民の協力を得られるよう、日常的に地域と交流をしたり、住民宅に挨拶に伺ったりしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一法人の栄養士のアドバイスを受けて献立を作成し、栄養バランスの確保に努めている。水分摂取量は1200ccを目安としており、職員が適宜確認をしていて個人記録簿にも記入している。また、2週間で1kgの体重の増減があった場合には、協力医療機関に報告し、指示を受けたり受診したりして健康管理を行っている。透析を受けている方が2名おり、医師の指示により対応している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、入居者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間だけでなく各居室の入り口にも、職員持ち寄りのものや花壇に咲いている草花が飾られ、季節感を出している。朝顔やゴーヤーの葉で自然のカーテンを作り、エントランスにもたくさんの草花を植えて、入居者がベンチに座って楽しめる工夫をしている。建物内部にも、食堂のそばに掘り炬燵のついた畳敷きのスペース、ソファのある談話コーナー、椅子のあるウッドデッキ、トイレが分かるための床のデザインなど、入居者が居心地良く過ごせるための様々なアイデアが施されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、洗面台やベッドなどの備え付けのもの以外に自宅で使用していた家具類・テレビ・楽器などが置かれている。それぞれ思い思いにレイアウトされ、自分自身の空間が作られている。「汚くてしていて恥ずかしい」と言いながら見せてくださった方の居室も含めて、居室内部はそれぞれ個性があり、自分の生活場所としている。		